HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Preoperative age and prognostic nutritional index are useful factors for evaluating postoperative delirium among patients with adult spinal deformity

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2019-11-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大江, 慎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003661

論文審査の結果の要旨

術後せん妄は、入院期間の延長や、機能回復の遅れ、死亡率を高める重要な術後合併症であり、近年、手術患者の高齢化もあって大きな問題となっている。最近、術前の栄養状態が、術後せん妄の危険因子の一つであることが報告されたが、成人脊柱変形（ASD）手術における術後せん妄の危険因子は明らかになっていない。そこで、申請者は、ASD 術後せん妄の危険因子を、栄養状態も含めて解明することを目的として本研究を行った。

当院で ASD 手術をうけた 319 例を対象とし、術後 30 日以内にせん妄を起こした症例をせん妄群、起こさなかった症例を非せん妄群とした。せん妄の診断は Confusion Assessment Method を用いて、また、栄養状態は Prognostic nutritional index（PNI）と Controlling nutritional status index（CONUT）によって評価した。その結果、せん妄群は 30 例､非せん妄群は 289 例であった。術後成績の評価では、術後せん妄群で有意に自宅退院率が低下していた。せん妄群では、非せん妄群と比較して、有意に高年齢、血清アルブミン低値、PNI 低値、CONUT 高値であった。多変量ロジスティック解析では、高年齢、PNI 低値が独立した危険因子であった。Receiver operating characteristic を用いたせん妄リスクのカットオフ値は年齢 68.5 歳、PNI は 49.7 であった。

以上より、申請者は、ASD 術後せん妄の危険因子が「高年齢」と「PNI で評価される栄養状態」であることを見出し、申請者が設定したそれぞれのカットオフ値は ASD 術後せん妄発症のリスクを予測する指標として有用であることを示した。

本研究は、ASD 術後せん妄の危険因子をはじめて明らかにした上に、そのリスク予測を可能とし、さらには術後せん妄予防のための術前栄養管理の重要性を示唆する研究として、審査委員会では高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　須田 隆文
　　副査　尾島 俊之　　副査　山内 克哉